広報
さめがわ
昭和55年
1月号
No. 313
編集兼発行
鮫川村総務課
協町佐藤印刷所

関東分水嶺

関、東北水をへだつる朝日山朝あけ雲を年のしるしに
へき遠の山を拓きて郷人の歴史は積みぬこの桑園に

曙峯



青生野養蚕協業組合の集団桑園から望む朝日山の勇姿……
主峯朝日は標高797.3m、右前峯に招ぎ、後峯に夕日を従えている。

- ⊙ 6日　消防出初式
- ⊙ 15日　鮫川村成人式
- ⊙ 12月15日～1月14日　年末年始交通事故防止県民運動
- ⊙ 12月15日～1月14日　年末年始防犯運動

今月の人口

（12月25日現在）

		前月比
人口	5,736	(－2)
男	2,862	(－1)
女	2,874	(－1)
世帯	1,163	(0)

年頭特別警戒実施中

昭和五五年度の無火災を願い、村民の皆さんに火災予防のご協力をお願いします。

◎火が出たときの初期活動三原則

一、消防署に早く知らせる

一般電話　一一九

地集電話　〇〇一一九

二、早く消す

三、早く逃げる

◎消火のコツ

一、床面が燃えている時は、火の中心から水をかけ始め、だんだんとまわりにかける。

二、板壁、ふすまなど「立上り面」の場合は上方から水をかける。

三、板壁など木材の火は、消えたあとも続けて二、三杯かけておく。

棚倉消防署鮫川分署

世界農林業センサス

本年二月一日現在で世界農林業センサスが実施されます。

農林業サンサスは、農林業の生産構造を明らかにし、農林業生産の基礎となる諸条件等を総合的には握することによって、農林業の基本構造の現状と動向を明らかにし、農林行政諸施策を推進する大切な統計調査です。

この調査を実施するため調査員が二月一日前後に皆様のお宅に調査票等をお届けしますので、調査の趣旨を十分ご理解いただき、ご協力願います。

なお、調査票に記入していただく事項については、統計を作成するためにだけ使われるもので、その他の目的にはいっさい使用しませんので、ありのままをお答えくださいますようお願いします。

総務課

村税完納に感謝

年内に全村完納達成

昭和五四年度の村税は、一二月二六日に完納となり、継続二三年全村完納の輝かしい実績を挙げられました。

この実績は、納税に対する納税者の皆さんの深いご理解と、各区長さん、代理さん、組長さんのご協力の賜で、深く感謝を申し上げます。昭和五五年度の納税につきましてもよろしくお願いします。

おめでた

一一月

鍬木田　我妻　桐子　父我妻一兄
官沢　矢吹　祐二　父矢吹秋男
田尻　高久　順義　父高久利道
田尻　蛭田　智美　父蛭田正美
大塩　藤田　浩之　父藤田文雄
名下　須藤　秀紀　父須藤一

おくやみ

一二月

鍬木田　生田目タミ68歳生田目丈夫
官代田　クマ71歳田子勉一
浅屋敷　鈴木　久利87歳鈴木正利

牧谷の歩み (9)

望み多き一九八〇年代を迎え、皆様とともに昭和五五年の新春をことほぎ、更に加えてのご多幸をお祈りいたします。

七〇年代掉尾の昭和五四年、わが国では総選挙の結果による政権政党の内紛などで政治不信を招きましたが、世界的には中東産油国の内乱的騒動に端を発した石油危機の再来、韓国の政変など、激動の世代にふさわしい幕切れとなりました。

ことに不安と困乱の世相を過去にして、平和と安定の心あたたまる世代の建設に望みをかけたいものであります。

昨年は夏季の陰雨、秋の台風で気象的に恵まれず、農家の皆様のご尽力にもかかわらず、米の品質は損われ、葉煙草の収量も期待されず、こんにゃくは価格が低迷し、思わぬ痛手を受けました。

しかし、昔であれば冷害不可避と思われる年次に、数量の上では平年とあまり較差がないまでにこぎつけ得たことは、農家の皆様の進んだ技術とご努力の成果であって深く敬意を表します。



一九八〇年代の黎明を迎えて

村長　石田卯子八

米の生産過剰に対応する転作の普及は現段階では至上命令というべく、わが村は五二haの目標に対し八一・二haを実施して一五六%の実施率をあげました。

この実績の上に新しい水田利用画概要をまとめ、県に提出するとともに話合いを進めてきました。

何れ国の承認を得てこの年が実施第一年度になる見込みであります。移り変りゆく社会状勢を的確に把えつつ、村の発展集落の振興、住民生活の安定と福祉に効率的な施策を定着させ、更に前進するためには、転作を可能にする土地基盤の条件整備を積極的に進めなければなりません。

新しい農業構造改善事業については、住民皆様の意向調査、大字や集落の協議会などを経て提出された要望意見を集約して一応の計機能を発揮するよう施策の遂行に努力したいと思います。

活力ある人づくりを進める生涯教育の体系を形質共に整備することは自治体行政の根幹をなすものでありますが、その一環としての鮫川小学校舎の改築は第二期工事までこの年に完成させることになり、幼児教育の機関も新しい独立園舎で就学前教育の真価を発揮させたいものであります。

今や国も地方も財政困難の局面に立つことは明らかであります。

しかしながら福祉の切りすては阻止しなければならないし、公共事業の縮少もくい止めなければなりません。

新しい年に限りない望みをかけながら、この年もまた皆様のうえに幸多く、福祉の豊かなることを重ねて祈念いたします。

1月のゴミ集収日　江竜田～中野町～彦次郎～広畑～新宿（新宿橋まで）

可燃物　3日を除く毎週月・木
不燃物　14日・28日

そろそろ入学の準備を

昭和五五年度新入学児童

昭和五五年四月、村内の小学校に入学するお子さんは、昭和四八年四月二日から昭和四九年四月一日までに生まれたお子さんです。

昭和五四年一二月一日現在の調べでは八九名で、昨年より一八名多くなっています。

入学予定のお子さんは次のとおりですが、名前が違っていたり、もれていましたら昭和五五年一月二〇日までに村教育委員会学校教育課（電話三一五一番）に申し出て下さい。

◎青生野小学校　七名

児童名（保護者名）生年月日順

藤田利之（昇）岡部利美（利雄）土手内隆敏（隆男）長井幸栄（太一）岡部琴重（重勝）岡部晴美（照夫）金沢明美（助右門）

◎渡瀬小学校　一〇名

蛭田賢一（茂芳）松本幹雄（幸典）国井俊一（俊治）芳賀明則（國夫）赤坂徹弥（基）芳賀雄二（操）芳賀裕治（元治）山形淳一（一雄）芳賀めぐみ（健一）鈴木純子（源一）

◎富田小学校　一二名

松本英（一治）小川修治（久之）円谷仁志（次男）岸波悦子（竹雄）根本佐和子（幸一）坂本希（重男）鷲野谷さおり（重一）青戸美子（代吉）赤坂愛子（一郎）円谷かおり（鶴男）矢吹美幸（勝美）松本尚子（哲明）

◎西野小学校　一二名

白坂吉美（万吉）生田目仁（太一）北條裕幸（健治）舟木精一（金一）伊藤光太郎（光圀）佐藤勝徳（恵一）高坂結城（治郎）霜田昇子（幸巳）北條明美（水城）目黒幸枝（四朗）矢吹美千代（静）高坂千春（勝巳）

◎西山小学校　一一名

関根善広（孝夫）国井広樹（勝廣）関根明（市男）根本新司（榮一）生田目恭英（芳幸）高野勇一（富一）高野弘子（長二）我妻良重（清治）関根潤子（謙治）根本博美（一美）我妻真由美（福雄）芳賀幸夫（逸義）山本久（實）白坂雄一（寛）山本順一（元次）大河内健（正男）鈴木庄悟（重隆）藤田幸樹（一幸）岡部満（啓一）湯坐徹哉（良政）緑川祐二（利雄）岡部宏昭（宏）渡辺政樹（照美）中川西浩二（修身）蛭田竜次（美代志）本橋有人（隆宏）金沢浩之（吉衛）藤元健史（健次郎）斎藤博文（義男）斎須順（寛一）前田正樹（力男）高杉育子（晃）鈴木富士子（正巳）関根礼子（武捷）橋本みどり（正嗣）湯座啓美（孝友）吉田みどり（和男）鏑木市子（正昭）矢吹みゆき（光雄）本郷由美子（一美）須藤良枝（宏）石井玲子（政光）蛭田晴美（晴夫）佐藤真由美（元治）矢吹由美子（勝治）柿沼美紀（源義）佐久間恵子（栄一）湯座里美（和男）

◎鮫川小学校　三七名

年頭のあいさつ

議長　芳賀喜一



新しい年を迎えるに当り、村議会を代表して村民の皆様に、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

浅学非才な私が昨年五月村議会において、議長の重責を負うことになり、いまさらながら、その使命の重大さを痛感いたしております。

その後、私は議会の円滑な運営と、村民の皆様の声が村政に反映されるような、状況づくりのため、ひいては村政の伸展のため、努力を続けてまいりました。

昨年は、世界中が、エネルギー問題で明け、経済関係も容易でなく、住民生活にも不安が解消されない状況の中で経過しました。また国家財政の危機的様相が深刻化の一途をたどる中で、村民皆様の村政に対する要望は、ますます高まっております。

このような、状況の中で迎える昭和五五年は、本村にとって極めて重要な年になるかと思われます。

しかし乍ら待望の阿武隈山系南部区域開発事業も五か年で、三五億余の巨大な国費を投じて立派に完成し、いよいよ畜産基地として、各事業主体が生産の第一年に入る輝しい年でもあります。

本村の道路網の整備についても、厳しい財政状況が存在するなかで、村民を代表する議会人といたしましては、執行機関と相協調して、国・県に対しその対策を、強く働きかけますとともに、財政の許す限り最大限の効果をあげるため、一丸となって、努力すべき年であると考えております。

村議会は、村民の代表として、議決機関の機能を十分発揮しつつ、村民の皆様のご期待にそうよう努めてまいります。

どうか本年も一層のご支援、ご協力を、お願い申し上げ、昭和五五年が、村民の皆様にとりまして幸せな年でありますよう、お祈り申し上げまして、新年のごあいさつといたします。

休日の在宅当番医

（1月～2月）

月日（曜）	当番医院		備考
	鮫川村	塙・矢祭町	
1月1日（火）	和田	厚生病院（塙）	年始
2日（水）	阿部	中島（〃）	〃
3日（木）	藤田	根本（〃）	〃
6日（日）	勝田	厚生病院（〃）	
13日（日）	菅原	慈泉堂（矢祭）	
15日（火）	薄葉	石川（塙）	成人の日
20日（日）	大木	厚生病院（〃）	
27日（日）	藤巻	中島（〃）	
2月3日（日）	鮫川村診療所	根本（〃）	
10日（日）	和田	厚生病院（〃）	
11日（月）	阿部	慈泉堂（矢祭）	建国記念の日
17日（日）	藤田	石川（塙）	
24日（日）	勝田	厚生病院（〃）	

1月のゴミ収集日　新宿（新宿橋から）～道少田～大塩コース

可燃物　1日・15日を除く毎週火・木

不燃物　14日・28日

ものは何か



三恭実子幸
卓栄　嘉清
田藤谷戸川
藤須円青緑
長表表表
会代代代
工人年人
商老青婦
司会（総務課長）

司　会　現在は「地方の時代」と言われていますが、「一九八〇年代に望むものは何か」と題しまして皆さんにその構想や抱負、計画などをお話いただくために座談会を開催しましたところ、お忙しい中ご出席下さいましてありがとうございました。

まず初めに、村長さんからごあいさつをお願いします。

村　長　一九八〇年代を迎えて、この輝かしい世代にどのような夢と希望を掲げて進んでゆくか、ということについて村内の各層を代表する皆さんにおいでいただきました。

お忙しい中をご出席いただきましてありがとうございます。

まず初めに、八〇年代の前の七〇年代の社会情勢、鮫川村がどのように変って来たかについて簡単に触れ、次に八〇年代に望みを託す。こういう進め方がよいと思います。

一九七〇年代というのは昭和四五年からの一〇年間、この期間は日本経済の高度成長時代の終りから、新しく石油危機が起って、経済成長が落ちこんで不景気の時代に入った。こういう変化の大きい時代ですから一九七〇年代は「激動の時代」と考えてよいと思います。

さて、この激動の時代に鮫川村がどのように対応して移り変って来たかということを村の行政面からながめてみますと、鮫川村の行政はめざましい変化、発展をとげたと見てよかろうと思います。

鮫川村には国道が一本もなかったが、昭和四七年（一九七二年）には国道二八九号線。昭和五二年（一九七七年）には国道三四九号線が認定され、国道が二本生まれました。

それから県道も大きく変わりましたし、村道見渡～酒垂線、官沢～西山線は全線ほ装が完成。そのほかにも村道、林道を県が代行建設する県の代行路線というものができました。

最初には石井草から古殿に通ずる林道が、次に村道遠ケ竜～戸草線の大石草地内、昭和五四年（一九七九年）には富田～山田線が県代行で改良ほ装工事が着工されるようになりました。

次に文教、教育施設についてみますと、他町村ではなかなか学校統合は難しく騒ぎのもとになっていますが、わが村では七〇年代に渡瀬中学校、青生野中学校を統合して一村一校の中学校を完成しました。さらに戸草分校、東野分校を廃止し、中心校鮫川小学校の拡充を図ったのが昭和五一～五二年（一九七六～七年）のことです。

そして体育館、プールなどが各小中学校全般にわたってほぼ完成しました。さらに渡瀬に保育所が、西山に児童館ができて昭和五二年（一九七七年）に幼稚園が発足したので、幼児の保育、教育施設は七〇年代に整備されたわけです。

そのほか福祉関係では、昭和四七年（一九七七年）に常備消防施設が村にでき、昭和五四年（一九七九年）に出張所から分署に昇格したので、消防団の充実と共に火の守りも完璧なものになりつつあります。それに老人保養センターさざり荘が昭和四八年（一九七三年）に湯之田地内にできました。

また工場の誘致が行われ、昭和四七年（一九七二年）に田中メリヤス、その前に繊和工業が入って来ていますから、その他の工場と共に農工一体という形の農村が新しく形成されることになりました。

地域開発で大きいのは、広域農業開発事業で行われた阿武隈山系開発で、昭和四〇年にわが村から狼煙をあげ、昭和五〇年農用地開発公団が事業に着工し、昭和五四年に計画の全事業を終ることになりました。

この事業には三五億からの国家投資が行われ、阿武隈南部区域の山容が大きく変ったといわれます。

一九七〇年代激動の一〇年間。鮫川村は、今大筋のところを拾ってみても注目すべき変化と発展の姿が見られます。これも村民の皆さんのご協力とご尽力の賜で、深く感謝にたえません。

七〇年代の一〇年間を背景として、これからの一〇年間はどう進んで行くべきかというのが今日のテーマになっています。

ひとつ、それぞれの立場で遠慮のないご意見なり抱負、計画などを述べていただきたいと思います。

司　会　それでは、まず農協の藤田組合長さんから農業問題などを含めまして農協の構想などをお聞かせ下さい。

畜産・特産物中心の農業を



農協組合長　農協の立場から農業状勢を中心に七〇年代を見てみますと、農業状勢は大きく変化しています。

まず米の生産と需要と供給のバランスがとれなくなり、米が余ってしまったことが一つ。それぞれの農作物が自由品目であるので、これらの販売に苦慮していること。

こんにゃくの生産、価格の問題などが七〇年代の農業面の大きな問題であったかと思います。

そこで一九八〇年代をみますと、これからさらに低経済の中で、農業の状勢の厳しさが迫って来るであろうと考えられます。

1月のゴミ収集日　真坂～茅～酒垂～宝木～水口～官沢コース　不燃物　9日・23日

1980年代に望む

座談会

出席者　（敬称略）

村長　石田卯子八男
農業協同組合長　藤田秀一
土地改良区理事長　吉田義

畜産の場合、繁殖を中心としてその繁殖の中から生産される子牛を肥育農家に寄託して繁殖と肥育を一体にして畜産事業を進めて行きたいと考えます。

今、阿武隈開発事業で行われている放牧地などを利用して、現在年間三〇頭導入している牛をこれからは年間六〇頭位に増やして行きたい。

そこで村長さんに要望するのですが、現在、県の事業費は一頭二四万五、〇〇〇円で、これではよい牛を導入することができません。

それで事業費の引上げを県の方に要望していただきたいと思います。

このように畜産事業を進めて鮫川村に一大基地を造っていきたい。

それから、そ菜も現在は品目を数多くとりあげているわけですが、やはり鮫川村にあった品目、特にニラ等が各市場から要請されていますので、これからはこれらの面積の拡大を進めて行きたい。

これらの販売額も五四年は価格の低迷があったので約九、〇〇〇万円でしたが、将来は一億五、〇〇〇万円から二億円に増やして行きたい。

こんにゃくは価格が低迷していますが、生玉販売をやめてこんにゃく加工場や経済連の製こん工場などを利用して、共同販売を進めこんにゃくも鮫川村の大きな特産物にして行きたい。

養蚕、これも鮫川村の特産物ですが、現在は養蚕家の年齢が老齢化しているので新農構の中で新しく稚蚕飼育所を造りまして、労働力のあまりかからない人工飼料を供与しながら生産費を安くして若い人たちの養蚕家も育成して行きたい。

それから、稲作はやめるわけにはいかないので鮫川村の立地条件に合った品種を導入しながら、新農構の事業の中でライスセンターを造り、これを兼業農家の人たちのお役に立てたい。

いま一つは、農家の機械投資が多くなされているので、いくらかでも農協が肩代りして機械投資を控えるような指導をして行きたいと考えています。

司会　どうもありがとうございました。

村長　八〇年代は今までの稲作中心の農業から方向を転換して、畜産、特産物、そ菜、養蚕などに重点をおいた農業経営に軌道修正が必要であることは異論のないところです。

特に阿武隈山系開発事業で開発した草地が六〇〇ヘクタールもあります。鮫川村の田や畑と同じくらいの草地ができたわけで、第三の農地という性格を持っています。

この草地に牛を増殖し、第三の農地である草地を生かして畜産を盛んにしていく。これが最も大事な八〇年代農業の中核というべきでしょう。

種畜導入の際、県の基準頭が低いということですが、この引上げについては十分努力したいと思います。

そ菜、こんにゃくなどは価格の高低があります。こんにゃくなどは今の体制から見ますと、全郡の農協が荒こん加工の施設を持っているし、矢祭町地内には荒こんを精こんに仕上げる工場も設置されていますからこの施設を十分に生かして、生玉売りをなくし、農協一本に生産物を集めてもらうことが大事でしょう。

それから、養蚕も町ではできない山間部農村に適した産業ですから、組合長さんがいわれるようにお年寄りだけにまかせないで、若い方々にも興味をもって養蚕をやっていただきたい。それにはもっと近代的な稚蚕飼育所を造って、人工飼料なども取り入れ、省力的な飼育ができると楽しい養蚕が生まれてくると思います。

それから、新農構はただいま計画中で、県とヒアリングしていますが、その中には組合長さんがお話になったことは全部織り込んでありますから、これが仙台の農政局に上って、農林水産省で最終的に決まるまではまだ時間がかかるでしょうが、見込みあることに希望をかけて、今から準備にかかることが必要であろうと思います。

司会　それでは今も話が出ました新農構事業で土地基盤整備などが計画されていますが、今後の土地改良事業、その他につきまして吉田理事長さんにお願いします。

教育と産業
一体となった村づくりを



吉田理事長　私は七〇年代でよかったこと、うれしかったことが三つあります。

一つは昭和四七年（一九七二年）に統合中学校が立派にできあがったこと。それから鮫川村が広域市町村圏に入りまして消防署、さぎり荘などができ、村の福祉行政が一段と飛躍したこと。

それともう一つは村として忘れることのできない阿武隈開発事業が着工され、完成しようとしている、らん熟した鮫川村の村政が実現した時代ではないかと思います。それに実を結ばせるのが八〇年代「地方の時代」と考えられるわけです。

私の考えとしては、八〇年代には新農構、山村振興、林業構造改善事業を導入し、産業の振興を図り産業と教育が一体化した村の伸展を図りたいと思っています。

営農相談室を中心にして検討を加えているわけですが、八〇年代に向けて農業の厳しさにどう対応して行くかを考えてみますと、米の需給のバランスがとれないことにより減反が年々厳しくなって来ることを考えた場合に、やはり鮫川村の農業の方向を変えて行く必要があると思われます。

これは稲作中心から脱却して畜産、特産物など鮫川村の立地条件にあったものを中心にこれからの農業経営の安定を図る必要があると考えています。

1月のゴミ収集日　越虫～青生野～戸草～蕨ノ草～官代～遠ケ竜コース　不燃物　8日・22日

次に教育の問題ですが、教育施設が立派にできつつありますから、これに質的な教育に力を注ぎ、立派な人づくりをしなければならない。そして「産業と人づくり」これを八〇年代の大きなテーマにしたいと考えます。

それから、土地基盤整備に関してですが、七〇年代に土地改良区では約一八〇ヘクタールの事業を行ったわけです。それに稲作転換で一五ヘクタール、個人で約五〇ヘクタール行っていますので合計しますと約二五〇ヘクタール基盤整備が終っています。

この面積は、村の水田の約六〇〇ヘクタールとすれば一〇年間で四〇%行ったわけですから、あと二五〇ヘクタールを今後の一〇年間で行いたいと思います。

村　長　産業と教育を一体にして村の発展を図って行くべきであるということ、これは八〇年代の姿として、是非そうして行かなければならないと思います。

なお土地基盤整備というのは平たん地の農村ではそれほどでないにしても、鮫川村のような山間部ではなかなか容易でない事業ですが、八〇年代には残りの未整備農地について積極的に基盤整備を進めていただきたいものです。

司　会　次に明治、大正、昭和と三代にわたって、いろいろな時代を過ごされました須藤さんには、高齢者の立場から八〇年代の構想をお聞かせいただきたいと思います。

第二種兼業の農業を



須　藤　私が農業委員を勤めていたころは、乾田という田圃は一枚もなかったのですが、土地基盤整備、暗渠排水が進んで、今ではトラクターやハーベスターなどの機械が入るように整備され農業のやり方も大きく変りました。

その反面、七〇年代の終りから米の減反が行われ、また畜産、そ菜など農産物の価格安ということで、農業に若い人がついて来ない悩みがあるように思います。

たとえば、畜産を多頭化する場合、草地造成を考えてみますと、山の傾斜が急であるとか、土地の交換ができないなどの問題があり、なかなか難しいわけです。

八〇年代の農業は非常に難しい時代を迎えるのではないかと思います。

できれば一つの工場があり、そこに勤めながら農業をやって行くような形がよいのではないかと思うのです。

司　会　どうもありがとうございました。

村　長　今のお話のとおりで、米を作れば余る。タバコもこれ以上はたくさんだ。というような時代で、それに圃場整備をやろうと思えば自分のところはやりたくないというようなこと。それに農作物の値段が安いという問題もあって、農業経営が容易でない時代であることはご存じのとおりです。

そこで工場に勤めながら農業は片手間でやる。これもよいことですが、工場の問題になるとこれまた困難な問題がある。石油危機が来る前は鮫川村のような条件の村にも工場が入ってきて、工場経営も成り立ち、地域のために賃金所得の機会にもなったわけですが、景気が下向きになって来ると工場誘致どころか、折角誘致した工場も引上げて行くという現象が生れて来ています。

それでこれを広域的に考えて、大きな企画の中で、広域圏か郡の中心部に大規模な工業団地を造って、そこに数千人規模の労働者が働くことのできるような機構をつくることはどうでしょう。

そこは通勤が主体になりますから、道路がよくなければならない。二〇分三〇分で通勤できれば、何も近くでなければならないということはない。

大きな工業団地の設定。こういうところに政治や行政の力を向けていくことが大切であると思います。

農作物の価格が安い点は、価格補償制度をさらに充実して、これに対応する。

平素安全基金を積みたてておき、値段の下がった時は基金から不足分を支払うというような制度を強化する必要があります。

それから土地の問題ですが、一家の働き手が農外収入を主体にするようになると、それほど土地に頼らなくてもよくなるので、農地の流通が相談しやすくなるのではないかと思います。

農業経営に意欲を燃やす青年農業者に土地が貸付され、規模拡大と所得の向上が容易に行われるようになれば、農業も活気をとり戻すことになりましょう。

これは重要な課題ですから住民の方々の理解と認識を深めながら、暮しよい住みよい郷土を、そして心の交うあたたかな地域社会を作りあげて行くのが、八〇年代の目標ということになるのではないでしょうか。

司　会　それでは先程から後継者の問題などがでましたが、ここで青年代表の円谷さん、八〇年代の抱負などをお聞かせいただきたいと思います。

農業後継者問題を考える



円　谷　八〇年代に向って行く中で、我々青年の果す役割というのは非常に大きなものがあるのではないかと、責任を痛切に感じているわけです。

そうした中で我々青年として一番悩み、かつ心配しているのは農業後継者がいないということです。

これだけの農村地帯でありながら私もその一人なのですが、勤めている若者が非常に多いということ。これはそれなりの理由があって勤めているのですが、これは八〇年代の後半から九〇年代に向って行く場合に非常に大きな問題が生じて来るのではないかと思います。

今、農村をみた場合に四〇代後半から五〇代、六〇代という人たちが農業の主力をなしていると思います。そうした中で若い人たちが勤めに出ている。いざ四〇代、五〇代、六〇代の人たちが農業をやめた場合、若い人たちがあとを継げるだけの力、技術を身につけることができるかどうか。

それから、勤めのからだになってしまいますから体力的に農業をやっていけるかどうかが問題です。

そういった意味において我々青年は、この八〇年代は村の産業の発展、振興を進める意味においても大きな努力と慎重な考えをもって望んでゆかなければならない気

がします。

それと七〇年代前半になかった青年会の組織を七年前に再発足させて、青年会もようやく軌道に乗って来たわけです。ですから青年会というものを今後さらに大きなものにして行く、地域に根差したものにして行かなければならないと思います。

また、鮫川村に古くから伝わっている多くの伝統、郷土芸能、催し物などを受け継いで行かなければならないということを考えています。

八〇年代には青年会活動も飛躍し、会の後継者も育成して行かなければなりませんので、村からのご指導もお願いしたいと思います。

村　長　今農業に従事しているのは四〇代、五〇代、六〇代の人たちでそれより若い階層は大抵勤めに出ている。今従事している農業者が労働力を失った時点で、これをどう受けついでいくかということは非常に重大な問題ですね。

今勤めている青年諸君も、いずれは自分の家業を受け継ぐ時期が来るということを前提に考えると、今のうちから農業を研究し、農業に親しみ、土を愛する農業の本質に接しておくことが必要である。何よりも農業に耐える体力を養っておくことが大切ですね。

それから、青年会の活動で演劇やのど自慢を行うことも大事なことですが、もっと体力を鍛える活動、たとえば登山、水泳など。郷土の歴史を訪ね、農業を研究する産業活動などやってみると興味深くおもしろいものです。

そういう心くばりをしながら青年会活動を進めて行けば、八〇年代の青年活動として新しい分野が開けるような気がします。

司　会　村内の商工会の発展には目覚しいものがありますが、これらを八〇年代にさらに発展させるために商工会の構想など藤田会長さんにお願いします。

商工会館の早期実現と村の観光開発を



商工会長　商工会は昭和三六年に結成しました。その後、慣れないこともあって伸び悩みましたが、七〇年代に入ってから村の指導もありまして、青年部、婦人部、建設業部会最近では飲食店部会も結成され、伸びて来ています。

ことに金融面については村の協力もありまして、経営面でも何とか軌道に乗って来ました。

八〇年代は、これ以上に商工会を伸ばしてまいりたいと考えています。さらに商業経営の近代化を促進し、購買力の村外流出を防止したい。

工業関係では、設備の充実と技術の向上を図り受注を拡大したいと考えます。

なお商工会館は他町村では大分建設されており、経費の問題もあり容易ではないのですが、商工会内部からも是非建設してほしいという要望がありますので、八〇年代には村のご協力を得て何とか会館を建設したいと考えています。

それから観光開発の問題ですが、鮫川村の自然をPRして姉妹都市をつくり鮫川村に来る客を多くしたい。

それと八〇年代の商工業のあり方を総合的に調査するために、商工業振興総合調査を昭和五五年度に実施したいのですが経費が伴ないので、村の指導、協力をお願いしたいと思います。

村　長　最近の商工会の活動は非常に活発で、発展の姿がたのもしく感じられます。

村としては農業、商業、工業、サービス業等の調和のとれた発展を、今後とも十分計画を立てて施策を進めて行きたいと思います。

金融面では村の資金を利用していただいていますが、まだまだ少ないようですから今後増額を図ることも考えなければなりません。

それから交通事情がよくなると消費者が隣接の都市に行って買物をすることが多くなり、これは容易に阻止できないとは思いますが、そこは商業者のサービスの向上で対抗するより外はないように思います。

お客様を親切丁寧に取扱い、便宜をはかってあげることが村外流出をくい止める大事な手段となりましょう。

工業関係では、村の建設業者が多くの工事を請負うようになれば経費も少なくして済むし、村の人たちの働く場も多くなるので、お互いによいわけです。

それには是非業者の皆さんが仕事の面で勉強をして、建築士などの資格を取り、他にひけをとらない技術を磨き、資本装備をよくして、大きい事業を受注できるような体制をつくってもらいたいものです。

商工会館は当然造らなくてはならない施設ですから早期に計画を立て、県の補助も要請し、村も援助して鮫川村の商工会にふさわしい会館を八〇年代の早い時期に建てるべきだと思います。

次に観光施設、観光開発のことですが、これは今後是非進めて行かなければならない課題です。

今のところ構想の段階ですが、第三次山村振興計画や林業構造改善事業などを取り入れて、村の美しい自然を生かし、強滝、天狗橋、江竜田の滝などを森林公園として整備することも考えてみたいし、歴史のある館山を中心に農村公園をつくり、住民の憩いの場、交流の場とすることも進めてみたいと考えています。

わが村にとって貴重な観光資源は、美しい自然もさることながら、その最たるものは温之田温泉でしょう。あれだけの温泉資源は阿武隈山系には他にないのですから、これから一層PRと設備の整備が望まれるところです。

姉妹都市も八〇年代には実現を図りたいものです。

ボランティア活動と生活の合理化を

司　会　主婦の立場から八〇年代の抱負など婦人代表の青戸さんお願いします。

青　戸　村にも七〇年代にはさぎり荘、開発センターなどの公共施設ができました。

そこで私たち婦人会は、昨年の夏さぎり荘で座ぶとんカバーを洗濯したり、ほころびを繕ったり、お掃除などの奉仕活動をしました。

私たちは婦人であり主婦であるので、これから八〇年代もボランティア活動を続けて行きたいと思います。

自衛官募集　詳しいことは募集事務所または役場総務課へおたずね下さい。



それから、現在農家では男の人は出稼ぎなど家にいない機会が多く、主婦の仕事が多くなっています。

今後ライスセンターができたり、土地基盤整備などが進み、大型機械が導入されるようになれば農作業も省力化され、主婦の仕事も省けるので新農構の事業は是非進めていただきたいと思います。

それと婦人会では生活の簡素化や節約運動を随分前から進めていますが、なかなか実績が上りません。そのことは八〇年代も一層しんけんに進めて行かなければならないと考えています。

また婦人会も後継者の育成が大切だと思います。

村　長　婦人会は、もともと婦人の皆さんが自分たちの教養を高めたり、娯楽なども取り入れて楽しく過ごすことが中心であったかと思いますが、最近の婦人会は人のため、世の中のために働くという「ボランティア活動」を盛んに行っておられます。これで婦人会のイメージも大分変ったことになり、八〇年代は一層の発展が期待されます。

昨年、商工会婦人部は道路わきに花を植えました。これもボランティア活動の一つで好評を博しております。

そこで行政とボランティア活動の関係ですが、住民から税金をいただいて、そのお金で仕事をするのが行政です。行政でやる仕事にも限界があり、その先は税金ではできない部分があります。

最近、国も市町村も財政が容易でない関係もあって、「行政の限界」ということがいわれています。

山を切り開いて道路をつくる。砂利を敷いたり、ほ装したりして人も車も通りやすくする。というのは税金で行うべき仕事です。

しかし、道路に落ちているゴミやタバコの吸いがらを拾ってきれいにするのは行政ではなく、各人の自覚と協力、ボランティアで行われるのが望ましいのではないでしょうか。

そこでこれらの行政でできない部分を青年会や婦人会や老人クラブなどの方々が、自発的な考えとして大いにやっていただいたら、美しい生活環境、心あたたまる住みよい社会が実現することになると思うのです。

家庭の柱である主婦を過労から守るには、農作業を機械化することが必要で、その前提には土地基盤の整備が大事な役割を果たします。

このことは新農構でいろいろ計画されており、農協や土地改良区が真剣に取り組むことになっています。

それから生活の簡素合理化、これもなかなか難しいことで、一回や二回申し合わせた位ではなかなかできません。

強制力がないものですから、いつのまにか崩れてしまう。これはやはり人々の自粛、反省を絶えず促していく。根気強く、部落、村、県の段階でそれぞれ有効な方法を考えて実施する必要があります。

婦人会役員の後継者の問題も重要なことで、会長さんなどは年間何十日も諸会合に出なければならないそうで、時間的、経済的負担が容易でないわけです。

これを何とかカバーしてあげる方法を考えなければならないし、また会員の組織や協力の体制で、役員の負担を軽くする方法も考えるべきだと思います。

以上でひととおり皆さんのご意見を出していただきました。その都度私から感想なり村の方針や考え方を申し上げたわけで、鮫川村としてはこれからの一〇年、一九八〇年代は、今まで築き上げた実績を基盤にして、一層飛躍的な村の発展を図るべき世代であり、またそれが可能であると信じます。

ただ、財政というものが容易でない時代に入ります。行政でやる仕事とボランティア活動に期待する分野と、集落や行政区で行う仕事など、分担と協調を図りながら全体として村の発展を進める方向に向いたいと思います。

吉田理事長　ずっと話を聞きまして七〇年代にはすばらしい基礎ができましたので、これに実をつけ教育、産業、そして経済という問題の文化の花開くのが八〇年代であろうと私は考えています。

そのためには行政はもちろん、私たち団体、老人クラブ、青年会、婦人会そして商工会などの各会、各団体の皆さんにもボランティア活動などを通じて協力してもらったらどうかと考えます。

それと青年代表の円谷さんが申されましたように後継者問題、これは山村開発センター、公民館を中心に生涯教育を進めることが大事であろうと思います。

教育の施設もできているし、これから体育館、プールそして公園というような村のたのしみの場もできるようですから、これを中心に八〇年代一〇年間は大いに奮起発展の村にして行きたいと思います。

村　長　そう願いたいものですね。

吉田理事長　財政的に少し問題があるようですけど……

村　長　今までのように国、県からいくらでも補助金をもらえるという考え方は改めなければなりません。村のやる仕事と、各種団体のやる仕事と、各個人の努力とが完全に調和して村が立派になって行く。こういう進め方が八〇年代の村の発展の姿でなくてはならないというふうに感じます。

吉田理事長　私たち村民の立場に立っても、何でもかんでも村にしてもらうという考えは改める必要があると思います。

須藤　私たちの時代には、ある程度部落で公共の建物などを建てるときは敷地を提供したり、寄附を取ったりしてやっていた。今はほとんどそれがなくなってしまいました。

農協組合長　先程青年代表の円谷君からいわれたように、現在我々の年代の人が老齢化してしまった場合、農業をだれがやるか。農業後継者という問題を考えて行くことが重要です。

それと婦人代表の青戸さんがいわれたように節約ということ。私は今、生活指導員に自給自足の生活をするように勧めています。

農家が野菜を買って食べているようでは自給自足でないわけです。

この辺からも関連づけて、少しでも土を愛する指導をしてゆきたいと考えます。

司　会　お話しはつきませんが、我が鮫川村の限りない発展を祈って座談会を終ることにいたします。

どうもありがとうございました。